

ゲストと話そう！

キーパーソンによる取組みのプレゼンおよび会場とのトークセッション③



- ◆ゲストスピーカー 本杉 香氏 (明大前商店街振興組合 理事長)
- ◆聞き手 東 朋治氏 (株式会社商業タウンマネジメント代表取締役)
- ◆テーマ 明大前ピースメーカーズ

※以下、敬称略。

東： 3人目のご登壇者は、明大前商店街の本杉様です。商店街のパトロール隊「明大前ピースメーカーズ」は、自分たちのまちは自分で守る、商店街の組合員による防犯パトロール隊ということで、現在世界からも注目を集めているということです。スライドを見ながら進めていこうと思います。

本杉：(スライドの写真は)駅前通りです。明治大学はこの反対側 200m くらい先にあります。明大生は現在 12,500 人くらいで、明大の他に、専門学校、高校 4 校、中学校 2 校、小学校 2 校が駅を利用している学生の町です。歩いている人も若い人が多いのですが、学生はお金を落としてはくれません。一般の成人の方たちの半額ぐらしか買い物しないようで 5 年前の調査では、学生が落とす金額は 1 日 400 円くらいでした。ワンコイン以下なんですよ (笑)。

東： 先程は高齢化で困っているというお話があったのですが、今回は若者で困っていると(笑)若者が多くてうらやましいと、単純に思えないんですね。さて、この(スライドの)写真はなんでしょうか。こちらがピースメーカーなんですか。

本杉： はい、日本初の民間交番です。4.5 坪くらいしかないのですが、民間が経営する交番でお巡りさんはおらず、商店街の専従職員が朝 8 時から夕方 6 時くらい常駐し、その後夜 8 時くらいからパトロールする隊員が集まり、夜の 11 時まで運営しています。この施設は商店街の持ち物で、京王線

の用地内に世田谷区が無償で建物を建ててくれました。

東： 警察の許可はもらっているんですか？



本杉： 警察の許可は別にもらっておりません。特に許可はいらないんです。世田谷区では、振興組合は消費者懇談会を毎年 1 回開催することが義務化されており、私たちが平成 8 年に組合化した時から毎年 20~30 人に集まってもらってご意見をうかがっています。そこで、「最近明大前は犯罪が多すぎる。財産の危機、人命の危機を感じる」という話を聞きました。昭和 35 年の第一次安保闘争のときに大きな紛争が起こり、その影響を平成に入ってから引きずり、街全体が殺伐としていて消費者も

怖がるような状況だったのです。それから、ひったくり、空き巣、窃盗、強盗、スリや痴漢といったいろいろな犯罪があって、平成 13 年に明大前駅は区でワースト 1 だったんです。

それがピースメーカーができ犯罪が激変したのです。空き巣、ひったくり、窃盗、強盗について、警察が統計を取りました。ちなみに、スリ、痴漢は、電車の中で犯罪を起こすことが多いわけです。すると、明大前は京王線の特急、急行も含めてすべての電車が止まりますから、電車の中でスリ、痴漢をした者が明大駅で引きずり降ろされ、それが全部明大前の事件として数えられてしまうんですよ。そうすると、1 年間で犯罪数が 1000 件を超えてしまうんです。そこまではこちらで責任持てない(会場笑)。ということ警察と話したところ、警察から、「それでは、統計上、ひったくり、空き巣、窃盗、強盗で統計をとって、民間交番の成果を考える」ということになりました。この 4 つの犯罪に関して、平成 14 年の年間件数が 527 件だったのが、日・祭日を除く毎晩のようにパトロールしましたら 1 年で 303 件減りました。つまり、60 パーセント減ったんです。その次の年には 99 件減り、あっという間に世田谷区のなかでも一番安全な町になりました。

東： 防犯対策というまず防犯カメラを付けるところが日本中で多いと思いますが、パトロールをしてこれほど成果が出た要因というのは何でしょうか。ただ見回りだけでこんなにも減るものなんですか？何人くらいでされているのですか？

本杉： 私もびっくりしています。現在は 57 名隊員がいますが、最初は 20 数名でした。平成 13 年に、地域に交番もないし、パトロール隊を組織して民間交番をつくろうということを理事会で話しました。交番がなかったのは、学生運動で明治大学周辺の 4 交番が焼き討ちされてしまったからですが、警視庁では新しく交番をつくれな、じゃあ自分たちでつくろうということで、民間交番になったわけです。消費者懇談会で 20 人以上から一斉に「生命の危険を感じる」「財産の危機を感じる」と言われたら、これは何とかしなければ、と思いましたよ。でも理事会で私が「こういうのをやろう」と言ったら、ほとんどの理事から「それは、商店街がやる事業ではなく警察がやる事業なのでは？」と反対されました(笑)。なので、その頃は、パトロールはしてもらえないし、交番はできないし、明治大学は殺伐としているし、地元の小学校では 10 日に 1 回痴漢被害があり、世田谷区の 64 小学校の中のワーストなんて言われていました。

東： ピースメーカーズのメンバーは店主ですか？

本杉：理事会で反対されたので、商店街には頼めないなと思ひまして、ボクシングジム、剣道教室、空手道場を回ってお願いし、10 数人集めました。ただ、それは長続きしませんでした。

コンセプトは「安心安全のまちづくり」とし、自分たちのまちは自分たちで守ろう、ということをもっとにしましたが、最初 250 店の組合員はそんなこと出来るわけない、と言っていました。

その頃は 1 日にだいたい 3 件の犯罪があり、商店街でも、「あそこも夕べ強盗にあった」、「ここも空き巣に入られた」という話がしょっちゅう出ていたんです。それが 1 年たったら 1/3 になった。明らかに成果が出ました。それで、若い組合員が、「理事長が頑張っているから俺たちも協力しよう」と加わってくれました。今は 2/3 が商店街の店主か息子か従業員で、1/3 が外部の人です。女性隊員もいて昼間に小学校の見回りをしています。

そういたしましたら、安全性が高まるとともに乗降客数が増え出したんです。警察が明大前は安心だ、と宣伝してくれたんです。その効果です。夜の 8 時半以降に若い女性が明大前で降りるようになりました。隣駅の人も明大前で降りて駅前の民間交番から出発するパトロール隊について歩いて家に帰るようになったのです。明大前の若い女性の降客数が増えたことに京王電鉄本社が気づき、駅長が商店街にその理由を聞きに来ました。

東：平成 28 年に EU でも取り組みが始まったということですが、これはどういうことですか？

本杉：フランス国立アカデミーという世界中の優秀な大学院生を国費留学させて世界中のいろいろな研究をしているところがあるのですが、その犯罪を研究しているチームが、世界 200 か国で日本だけが平成 15 年から犯罪が減り続け、後の 199 か国はずっと増えている、これは何かあるだろう、ということで、大使館を通じて警察庁に問い合わせをしたんです。そうしましたら、警察庁が明大前を紹介したんですよ。実は、平成 15 年に NHK の番組で「こうすればまちは安全になりますよ」ということで、パトロール隊が紹介されたんです。制服制帽を身に着け、しっかりと会則をつくって、学校登校班もつくってパトロールをすれば犯罪は減ってくるんですよ、というのを 45 分間放送したら、テレビ局に問い合わせが殺到しました。「この制服制帽はどこで売っているんですか」とか。「明日から制服制帽を着て、会則をつくってパトロールしたい」というところが 500 件も問い合わせしてきたんです。それで NHK に制服と帽子の販売先をお教えしたら、なんとが 1 年間に 80 万着、20 億円も売れたそうです(笑)。あっという間に、全国で 1 万隊、100 万人の人がパトロールすることになった。その抑止力で犯罪が減った、と警察庁は判断したわけです。その元祖が明大前商店街なので「ここに行って調べてみたらどうですか？」と我々をフランス国立アカデミーに紹介したわけです。そうして、平成 28 年 3 月に 2 名の方がフランス国立アカデミーから明大前に来て、2 日間に渡って一緒にパトロールしたりして、いろいろ調べて帰られました。それをケンブリッジ大学で EU の防犯関係者が集まったところで発表し、その反応は、「そんな程度で犯罪が減るのなら、やってみよう」とい声があがったということで、フランス、イギリスで取り組みが始まったということ、後日共同通信社からうかがいました。





(質疑応答)

質問者①：大学を核にしたまちかと思いますが、防犯に関わらず、明治大学と協力したまちづくりで、具体例があれば教えていただきたい。

本杉：過去、安保闘争の犯人検挙に協力したこともあり、以降明治大学は商店街の提案も聞いてくれますし、我々も明治大学に協力し、お互いに連携しています。商店街のイベント（餅つき、盆踊りなど）には年間 500 人くらい学生を動員

員してくれます。学園祭にはこちらからも支援しています。京王線の立体化についての図面作成などにも協力してもらっています。

質問者②：パトロールしなければいけないような状況になって、即対応なさった理事長のリーダーシップ、考え、思い切り、そういった気持ちの動きが私たちに必要なのではと感じました。パトロールは警察関係のことかも知れないですが、現在は自殺する方、悩みの多い方も増えたので、福祉の面でも役立つのではないかと感じました。どうしてこのように思い切った行動をしたのかでしょうか。私どもも参考にさせていただきたいと思います。

本杉：明大前では平成 13 年 10 月にパトロールを始めましたが、既にパトロールを行っていたのは栃木で 1 か月に 1 回、富士宮では商店街だけで 1 か月に 1 回、行っていました。毎日行うのは明大前が最初だったので NHK が取り上げてくれました。私は大学時代からこちらに来て、明大和泉キャンパスに 2 年、卒業してからサラリーマンを 10 年、明大前の商店街で事業を起こして 50 年近くなります。まちに対して何らかの恩返しをしたいという気持ちが非常にありました。

平成 8 年に自分が理事長になってすぐの頃、まだ駅前が整備されておらず、5メートル幅くらいの道路に毎朝自転車が両脇に並べられていて、車が通るときには歩行者は自転車の上に倒れこまないといけないというような、悲惨な状況がありました。これではいつか大きな事故が起きると思い、これを撤去しようと世田谷区に連絡したら、週 1 回程度の撤去なら出来るけれどそれ以上は無理だと。警察にも聞いたのですけれども、自転車を動かすのは難しいと言われました。しかし、事故が起きるのを指をくわえて見ているわけにもいかないので、私の判断と責任で若者 5 人と一緒に毎日 10 時、午後 2 時と 5 時に、1 人 10 台ずつ草むらに自転車をどんどん移動させたんですね。これを 1 か月続けるのは大変だな、と思ったのですが、1 週間で自転車を放置する人がピタッといなくなりました。このことが頭にありました。パトロールもやれば、これは絶対に効果は出ると思い、思い切ってやりました。結果、乗降客数が 5 万人増えて 11 万人、商店街には年間 150 億くらいの経済効果があり、結果的に大成功したと思っています。